

平成30年度 自己評価書

学校名	北海道芽室高等学校
-----	-----------

1 本年度の重点目標

・ 学習指導の充実により、学習に対する意欲・関心を育み、確かな学力の向上を図るとともに、自らの考えを的確に伝え他と共有する態度・能力を育成する。 ・ 生徒理解を基盤とした生徒指導の充実により、規範意識や基本的生活習慣の定着を図るとともに、困難に負けない強い心と他を思いやる豊かな心を育成する。 ・ 発達段階に応じた健康・安全指導の充実により、体力の向上を図るとともに、自他の健康安全を適切に守る態度を育成する。 ・ 「部活動休養日等の完全実施」に向けて、部活動の指導・運営に係る体制を構築する。
--

2 学校自己評価結果及び改善方策

大項目	中項目	番号	具 体 的 評 価 項 目	達成状況	取り組みの適切さ	今後の改善方策
学校運営	組織運営	1	生徒・学校・地域社会の実態に即した重点目標、経営方針が設定されている。	B	A	今年度中に、育成を目指す資質・能力を策定するなど、国や時代の動向に対応しながら、目指す学校像の一層の明確化・焦点化を進める。
		2	学校経営方針が全教職員に周知され、協働のもと課題解決へ向け機動的に取り組んでいる。	B	B	学校課題、方策、解決工程を確実に共有し、分掌主導の組織運営を実践する。
		3	各会議・委員会をとおして、学年・分掌業務の調整・連携が図られている。	B	B	教育活動を分掌・委員会が計画立案し、関係職員全体での実施する体制の整備を進める。
		4	時間外勤務の縮減及び教職員の健康を保持する取組を進めている。	C	B	管理職のリーダーシップのもと、諸制度を有効に活用するとともに、業務の習熟と計画的・組織的遂行により効率化を図る。
	信頼される学校づくり	5	HPの更新や懇談・通信をとおして積極的な情報発信・情報交換に努め、説明責任を果たしている。	B	B	個別にHPを更新するだけではなく、全体としてHPがどうあるべきかを改めて考える。
		6	地域の関係機関、中学校、保護者と連携した取組を実施するとともに、PTA活動が活発に行われている。	B	B	地域人材の活用や幼小中大教育との連携をより一層進める。「総合的な探求の時間」をデザインするなかで、地域との協力関係を模索する。
	教職員の資質向上	7	〇教職員各自が不祥事を起こさぬよう服務規律保持を意識し、自己管理が適切にできている。	A	A	心に届く職場研修など実効性のある取組を実施し、服務規律保持に万全を期す。
		8	〇学校課題に基づいた組織的・計画的な研修が実施されるとともに、教職員各自が校外研修や研究活動に積極的に取り組み、成果の還元を図っている。	A	B	新学習指導要領や高大接続改革への対応に向けて、実際の取り組みを進めていく。
教育活動	学習指導 (教育課程を含む)	9	教育目標、重点目標、生徒の実態を踏まえ、教育課程委員会をとおし、生徒の自己(進路)実現を図るよう教育課程の点検・実施を行っている。	B	A	新たなカリキュラムの原案を作成するプロジェクトチームを編成し、教育課程委員会で具体的な編成作業を進めていく。
		10	〇基礎・基本の確実な定着を目指し、生徒一人ひとりが達成感を得られるよう授業改善を行っている。	B	B	継続指導及び国英数の実力養成を中心に習慣化を進める。
		11	〇授業形態(アクティブラーニング型の研究)や教材の工夫・改善を図り、自ら学び自ら考え、課題解決に主体的に取り組む資質・能力の育成に努めている。	B	B	各教科における研修機会の設定、各種研究会参加の成果を全職員へ還元させる。
		12	〇評価の観点を明確にし、思考力・判断力・表現力を育成する評価を行うとともに、生徒一人ひとりの学力・学習状況を的確に把握し、個に応じたきめ細やかな指導を行っている。	B	B	今後も適切な評価・考査問題の作成をしていくとともに、時代の要請に適切に対応していく。
	生徒指導	13	〇挨拶指導を中心に、身だしなみ・言葉遣いの大切さを理解させ、規範意識の育成や基本的生活習慣の定着を図る指導を機会あるごとに行っている。	A	A	今後も生徒指導部と学年・担任が連携しながら、身だしなみ、言動、マナー等、外部や社会に通用する生徒の育成を目指す。
		14	◎個別面談を活用するとともに、保護者・地域・関係機関との連携を密にし、個々の生徒の変容を的確に把握した指導を行っている。	B	B	スクールカウンセリング制度を有効に機能させる。
		15	いじめ防止基本方針に基づく、いじめ未然防止・根絶に向けた取組がなされている。	B	A	ネット・バトロールの充実やネットモラル向上のための講演を実施する。教育相談の充実を図る。生徒会主導によるいじめ根絶の取り組みを推進する。
		16	◎生徒会活動、HR活動、ボランティア活動の活性化を図るとともに、生徒の自主性を育成するよう指導している。	B	B	行事や生徒会の意義について改めて指導し、生徒のより積極的な自主的活動につなげていく。
		17	〇部活動について、適切な指導計画のもと、自主性を高め、学習との両立を図るよう指導している。	B	B	部活動を生かし、元気で諦めず粘り強く社会に通用する生徒の育成を継続する。芽室高校部活動方針を策定し、適切な部活動運営に努める。
	進路指導	18	キャリア教育の全体計画に基づき、学年や教科及び関係機関と連携したキャリア教育が実施できている。	B	B	今後も進路指導部、学年、教科とより一層連携を深めていきたい。
		19	キャリア教育をとおして職業理解と自己理解を深めさせ、進路意識を向上させることができている。	B	B	進路指導部と学年が連携し、内定者の事後指導を強化していく。
		20	◎進学・就職に向けて、生徒に各種模擬試験、検定取得、講習、模擬面接や就業体験等へ積極的・継続的な参加をさせることができている。	B	B	講習、模擬試験、検定等を受けるべき生徒を学年と連携しながら把握し、進路指導部が中心となって指導していく。
		21	進路に関する情報・資料の収集・活用、生徒・保護者への情報提供・相談を積極的に行っている。	B	B	来年度も進路講演会を進学(大学・看護)、就職(公務員・民間就職)に分けて、内容の充実にも努める。ファインシステムの全教員への導入を進める。
		22	家庭・地域と連携し、社会人として必要とされる能力を高め、進路希望を実現させることができている。	B	B	芽室町夏休みボランティア、大谷短大のインターンシップに参加するように促していく。普段の進路指導のなかで、必要な能力の育成に努める。
	健康・安全指導	23	健康安全意識の高揚を図るとともに、実効性のある保健講座(薬物乱用防止・性に関する指導など)を行っている。	A	B	外部講師の選定、講座内容について精査し実施していく。
		24	◎保健室利用状況から生徒の実態が把握され、養護教諭と担任・家庭との連携が密にとれている。	A	B	今後も継続していく。
		25	教育相談や特別な支援を必要とする生徒への指導について、関係機関との連携と体制整備が図られている。	B	B	引き続き、関係機関との連携を深め、相談体制の充実を図っていく。
		26	交通安全・防災の意識及び危機対応能力を高めるよう、関係機関と連携し、AED講習・避難訓練などとおし効果的な訓練・指導ができている。	A	A	ホームルームや集会等、機会ある毎に交通安全、防災について呼びかけ指導を継続していく。
学校運営	事務部運営	27	◎教育活動に支障がないよう、全職員が協力し、校舎内外の施設・設備の点検・維持管理が適切に行われている。	B	B	北海道の財政状況等を鑑み、継続的な予算申請を行い、道教委に対して毛企画的に現状の理解等を訴えていく。
		28	事務と各分掌・学年・委員会との連携(窓口業務を含め)が密にとれている。	A	B	予算の現状を各分掌・学年・委員会等と情報を共有する。
		29	〇学校事務効率化のために全教職員の協力体制が確立されている。	B	B	各種書類や要望について速やかな連絡を引き続きお願いをする。
		30	全教職員の理解のもと予算が適切に執行され、外郭団体における会計処理が適切に行われている。	B	A	教職員の情報共有を図り、予算が必要となるものについては事前に打ち合わせを行い計画的な執行に努める。